

2024 年度:こども園自己評価の報告書 高川 こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・「人的・物的環境をつくる遊びと体幹づくり」の研究テーマで日々の生活や遊びの中でどのようなことが体幹を育むことにつながるのか理論を学び、実践で具体的な動きや遊びを学び、教育保育に取り組む。日頃している遊びが、体幹づくりにつながることを学んだ。 ・『すき！スキ！好き！』仲間の中で笑顔いっぱい！」をテーマに自分がすき、身近なまわりの人がスキ、仲間や友達が好きで「自分は大切にされている、愛されている」と実感でき、まわりの友達にも大切に公平に関わっていける集団を育むために教育保育を進めた。 ・園の環境づくりを職員のグループに分かれて考え環境を整えていく。
健康支援	・定期的に身体計測を行い個々の成長を継続的に確認する。感染症対策として手洗い、消毒など必要に応じて支援を行う。 ・手洗いや歯磨き、プライベートゾーン等の話を実施し、園児が自分の身体や健康を意識する。なぜ必要なのかをわかりやすく教材を使って伝え理由を知り興味をもってしようとする力に繋げていった。 ・「ほけんだより」を毎月発行。家庭で保護者ができる健康維持の情報を伝えていく。
安全指導・危機管理	・毎月施設の安全点検を実施し、危険な箇所については修理を行い、規模の大きなものについては修繕依頼し改善していった。 ・玄関のドア、廊下の柵の鍵など開けたままにならないように配信アプリ等でも注意喚起していく。 ・避難訓練を毎月行い、約束事や自分の身を守る方法を知らせていった。高川センターとの合同避難訓練や交通指導なども行った。
食育の推進	・畑で収穫した野菜を使ってのクッキング、給食の献立で使用する野菜の皮むきなど食材や調理することに興味を持ち食べる意欲に繋がった。 ・「〇〇(食材)から、△△に変身」と大豆の加工食品を紹介し、行事食では「春の七草」をなぜ食べるのかを知らせ食への興味を広げた。 ・「〇〇組の給食人気メニュー」を配信アプリで配信。レシピメニューを紹介し家庭でも給食に興味を持ってもらえるようにしていった。
子育て支援（在園児および地域）	・1 階視診部屋を共有で地域開放の部屋にした。在園児の育休保護者が利用しやすくなり、園開放利用、育児相談のために来園される保護者同士が交流する機会となった。豊南西こども園地域支援センターから地域支援員の先生が来園する日の利用が多く、クラスから遊びに行くことで、同じ年齢の友だちと遊ぶ機会となった。 ・クラス参加の日に保護者講演会を行ったことで参加者が増え、次はかわり方の話を聞きたいなどの声もあった。 ・個人懇談、クラス懇談、保育参加など保護者が来園する機会を増やし、日頃の活動や子どもの成長を見てもらい個人懇談へつなげていく。

インクルーシブ教育保育	・子ども目線に立ち「子どもの困り感」を支援できるように支援学校や児童発達支援センターの巡回指導でアドバイスを受けながら、職員間で関わり方を共有し実践していく。
職員の資質の向上	・リフレーミングすることの大切さを学び、自分の視点だけでなく様々な角度で、職員同士や子どもへの関わり方を振り返った。 ・体幹づくりにつながる講義、実践を学び、取り組んでいった。 ・「環境ガイドライン」を利用しながら教育保育の活動・大人と子どもとの関わり方や子ども同士の関わり方など振り返り、言葉かけの点検や子ども理解を深めていった。
幼保こ小中の連携・接続	・就学先となる各小学校との連携を図り、子ども達の様子を伝え、見に来ていただいて話すなど、就学がスムーズにいくようにする。 ・小学校訪問し、自分の行く小学校を知る機会ができ入学への期待を持つことができた。 ・豊南西こども園の年長児と交流し、同じ小学校に行く友達を知る経験をする。
評議員会	・子ども達の姿や職員の関わり、地域支援の様子を見てもらい意見交換できた。職員で共有し、教育保育活動にしていく。 ・地域の現状を知り地域資源で活用できることを、教育保育の活動に取り組んでいく。
その他	・高齢者施設「ふるる」と5歳児との交流をしている。 ・「はんぶんこ」（元保護者さん運営）を地域の居場所として保護者・地域の方が利用している。はんぶんこで活動している絵本の修繕ボランティアと園で交流している。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
職員の資質の向上 教育の資質の向上	・アドバイザー研修や人権研修を始め、各自研修で受けたことを職員間で共有し学びを深める。実践した後の振り返り、どのように取り組み進めていくのかなど職員間で共有する。日頃からの子どもへの関わり方など不適切になっていないか、肯定的な声かけになっているか、関わりを点検する機会を持つ。子どもが主体的に遊べる環境になっているか引き続き意見交流し充実させていく。
保護者に教育・保育で育てていきたい姿・活動など大切にしていることをわかりやすく伝えていく	・どこにポイントを絞り、どのように伝えていくのか、アドバイザー研修も受けながら、わかりやすい提示の仕方を知り、実践していく。

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 高川 こども園

園長名 津田 美穂